

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

空欄補充・選択・記述・論述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)

難易 (**易化**・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

大問数は昨年と同じ4題であるが、論述量がかなり減少した。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択 記述 論述	受容器	生物	問1 音波は鼓膜を震動させ、その後、耳小骨、うずまき管と伝わり、うずまき管内のコルチ器に含まれる聴細胞に受容されることから考える。 問4 視軸とは、水晶体の中心と中心窩を結ぶ軸のことである。	やや易
II	空欄補充 選択 論述	発生	生物	問5 成体カエルの上皮細胞の核を用いた場合の方が、オタマジャクシの上皮細胞の核を用いた場合に比べて、核を移植された未受精卵の発生が早い段階で止まる傾向にある、という知識を元に考える。	標準
III	空欄補充 選択 記述 論述	植物の環境応答	生物	問2 胚のう細胞は、胚のう母細胞が減数分裂を行って生じた細胞であることに注意する。 問4(4) 低緯度地域では、昼夜の長さの変動が少なく、夜の長さがあまり短くならないことに着目する。	標準
IV	空欄補充 選択 記述 論述	進化・生態	生物	問3(b)・(c) いずれも、種間競争が激しくなるので、共存がより難しくなると考える。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・知識問題については、教科書を中心とした基本的な学習と、標準的な問題の演習を行おう。
- ・例年様々な分野から出題される。今年度は出題されなかった、細胞・遺伝・遺伝子などの分野の学習もしておこう。
- ・今年度は出題されなかったが、出題頻度が高い、遺伝・遺伝子については、特に対策をしておこう。
- ・今年度は、論述問題の制限字数の上限は50字であったが、例年、様々な制限字数の問題が多数出題されるので、論述問題の対策も十分にしておこう。